

NATURAL VOICE

エール学園支部

未来に備えて

日本語教育の未来…… だれのために 何のために どんな日本語を

いま新聞、テレビともマスコミでしきりと取り上げられている教育問題。主に物議をかもしているのは学校教育改革をめぐる教育再生会議の提言内容。日本の子供たちのいじめや学力問題といえ、どんな大人たちも一家言もっており、将来の社会への期待と不安の入り混じった切実な課題にちがいないでしょう。しかし、同じ会議の中で提案された「留学生 100 万人計画」には、マスコミも一般の注目も、さほど集まっていないように見えます。外務省の麻生大臣が主催する「アジアゲートウェイ戦略会議」でも中東の青年たちの受け入れが構想されています。このように相次いで打ち出された構想が実現にむけて本格的に動き始めれば、日本社会に深い影響を与え、同時にその過程で、内外にさまざまな軋轢も生まれると予測できるはずですが、現状に照らして、具体的な施策がそれに即して打てるかどうか判断できるのは、やはり関係機関や当事者たちだけなのかもしれません。

先日 7 月 16 日付の朝日新聞朝刊の「OPINION」欄に横田雅弘氏(一橋大学留学生センター教授)の論稿が掲載され、留学生受け入れ側の立場で、現状の 10 万人から 100 万人へという留学生数の飛躍的な拡大に伴う問題点と改善策、新たな提案が示されました。

わたしたち日本語教師、職員も留学生自身と全人的に向かい合う立場から、この大胆な構想の真の意図と理念を吟味すべきでしょう。あわせて、これまで大きな負担を抱えて教育内容を維持、努力してきた教育機関の現状と教育関係者の声を積極的に伝える機会をもっと増やしていくべきでしょう。まもなく夏休みです。……近視眼的になりがちな日々の授業を離れて、時代の流れをみつめる時間を持ちたいものです。

団体交渉報告 7月12日(火)午後3時半 5時 4号館2F

出席: 学園側 崎村氏 組合側 本部1名 エール支部8名

	組合要求 意見・質問	学園側回答 追加意見など
非常勤の有給休暇	専任は法律どおり・非常勤メンター・一般非常勤についても労基法、パート法に基づき有給がとれるはず。(実現のため)運用面(授業休講など)は、学園が考えるべき。	はじめて協議する内容。授業に穴があくため、扱い難しい。社会通念どおりにする気はある。運用検討はこの4月まで経営として考えていなかった。持ち帰って他校の事例も含め、検討する。
組合掲示板設置	主に組合員間の連絡・活動内容の告知を目的。サイズもそれほど大きなものを求めない。組合の交渉内容は待遇に納得がいけば、つぎの段階として「教育の質」など全体の話になっていくだろう。	現段階ではNO。全講師を代表していない。組合が教育の質の(向上)の役割を担っていくという(段階になっておらず)今は待遇の問題が主な論議になっている。講師への情報伝達は今でも認めている文書配布やメールでできるではないか。いったん持ち帰る。
専任復帰・および増員	後期クラス増見込み。専任へ復帰条件検討を求める。現実の労働内容・実労からすると、後期中上級メンターはこれまでの「専任」に劣らぬ役割を求められている。現行の主任も、教務職員として昨年度に上回る仕事量をかかえ、負担が負えない場合、それがメンター・非常勤職員へ転嫁されている。(来年度クラス数減見込みなら)後期だけ増員ということはできないか。	後期も前期を情勢は変わっていない。来年度前期は、多数の卒業数により、クラス数減少見込み。来年度の経常値を見たいのだが専任増は読めない。中上級メンター・初級メンターは増やす予定。上級は後期進学関係/進路指導の仕事があり、増えるのはわかる。通常業務の軽減として取り組みたい。
コマ数増加	前期コマ数減となった組合員の後期のコマ増を求める。現状、前期のコマ数のカバーの努力を評価している。	前期に減少、後期に増という通常の対応の範囲で。
その他	7月末・8月末で応じる。	非常勤のランク付け(給与表)の見直しを秋に提案する。 専任、非常勤メンターの役割表を支部対応で交渉したい。

支部会ご案内 非組合員の参加歓迎

ご相談、関心をお持ちの方は、組合員に気軽にお声をかけてください。

今週 開催!! 7月19日(日) 午後5時より 場所 エール2号館 (教室未定)

夏休みにも開催 8月17日(金) 午後より 詳細未定 場所 未定

しごと時間の記録を回収中です。早めにご提出お願いします。

「桜桃とキリスト 太宰治伝」を読んで

(長部日出雄著 文藝春秋社)

昔、太宰が入水したという玉川上水を見て、よくこんな小さな、ちよろちよろとしか流れていないどぶ川のような所で・・・と、思ったものです。実際は梅雨時で、水かさが増していたようですが。また、太宰と「心中」した女性と同僚だったという女性に出会ったこともあります。「けちな人でしたよ」・・・・・・・・。太宰は心酔するか、嫌悪するか、どちらかだと言われますが、私は中途半端。「ヴィヨンの妻」の主人公のような破滅型ですから、家族にはご免蒙りたいですが、ただ一つ評価しているのは、戦争協力をしなかったという点です。当時の作品、「お伽草紙」の「カチカチ山」は好きな作品です。若い女性に翻弄される中年男性の哀れさ。最も惹かれる作品は「右大臣実朝」。そして、キリストを「売った」ユダの独白、「駆け込み訴え」の文の、音読すればよさそうな勢い。

長部氏は、この音の魅力について、別著、「辻音楽師の唄」で、その由来を探っています。氏の評伝は太宰の新たな側面を浮き彫りにしてくれます。(縄文人 筆)

* 「駆け込み訴え」新潮文庫『走れメロス』に収録の短編のひとつ。

Myキッチン

韓国に数年前、語学留学した友人は日本仏教の仏教にはなんら関心がないくせに、韓国仏教には大いに関心を示し、休暇のたびに今度は慶州の寺へ、次は全羅南道の山寺へ・・・と名刹を求め、修行僧らとの対話を楽しみに歩きまわっていた。そしてたまたま帰国すると、どう！この寺、いいでしょう～とまるで恋人のことを語るようにあかず喋り捲るのだった。その話の相手をしながら、教わったのが、この【豆乳そうめん】。旅の途中に出会った尼僧がごちそうしてくれたそう。彼女に言われたとおり、作ってみると、そのまるやかさ、深い味わい、上品な舌触り。その夏はずっとこの韓国式そうめんを過ごしたくらい病みつきになった。

【材料】2人分 豆乳 2カップ コチジャン 大さじ1/2 塩 少々(または味噌)
そうめん 2束 キュウリ細切り

【作り方】 豆乳をコチジャンに少しずつ加えてスープを作り、塩でアジを整える。
ゆでたそうめんをよく冷やし、たっぷりかけ、キュウリをのせていただく。

今号より、新しいコーナーを新設しました。題して「日本語教師の本棚」と「Myキッチン」。

日ごろから、拙者はさておき、日本語教師になる人々は実に幅広い関心・体験をもっているものだなあと感じていました。何気ない話の中にも、つい引きこまれてしまう魅力がありまして話術といいましょうか、それぞれに個性があり、人をあきさせない語りのできる方が多い。にほんご」教師へと導かれた理由も、その豊富な体験、人間観、言語への関心の深さゆえのことでしょう。そのあたりをご本人に伺っても、軽く笑ってあしらわれることが多いゆえ、このたび秘策を練り、お好きな本をご紹介いただくことからさぐってみることにしました。きっと興味深い感想を得られることでしょう。ご期待ください。・・と望んでいます。おっと、もうひとつ、忘れるところでした「Myキッチン」。

日本語教師の尽きぬパワーの源。それはおそらく留学生へのあふれる と旺盛な食欲でしょう。食いしん坊を自認する編集子からスタートします。 編集子